

【全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会後援】

山形市「第3回地球温暖化防止シンポジウム」

1. 日時：平成21年1月31日（土）13時～17時
2. 場所：霞城セントラル3階（視聴覚室）＜山形市＞
3. 参加者：約100名
4. シンポジウム概要：

前日の好天から一転、朝から真冬の降雪（当日の積雪30cm）となり、参加者の出足が危ぶまれたが、事前申込みに近い約100名が参加した。

協議会から、中村幹事が特別講演とパネルディスカッションのパネリストとして参加、事務局から鈴木が準備・会員勧誘ほか、諸作業にまわった。

（1）主催者挨拶

協議会会員であり、本シンポジウム主催者の一人でもあるNPO法人知音の山崎代表から開会の挨拶があり、始まった。



（2）特別講演「京都市のバイオディーゼル燃料化事業と全国協議会の取組みについて」



京都市におけるバイオマス利活用に向けた取組みと、バイオディーゼル燃料の製造・利用に関するガイドラインを、経験をまじえて講演。さらにはそれぞれの役割等、参加者（特に自治体）に向けての熱いメッセージも説いた。

（3）パネルディスカッション

～バイオディーゼル燃料は環境にやさしいって、ほんと!??～

東北芸術工科大学の三浦准教授がコーディネーターになり、山形県トラック協会の奥山専務理事、蔵王温泉観光協会青年部の齋藤氏、菜の花プロジェクトネット

ワークの山田副代表、当協議会中村幹事のパネリストに、基調講演された滋賀県立大学の山根教授がアドバイザーとして加わり、パネラーの取組紹介に続き、会場からの質疑応答も含め、1時間半ほどの意見・情報交換・議論があった。



各パネリストの新しい取組紹介、地域として行政・市民が一体となって地産地消に取り組むことの重要性、バイオディーゼルを利用する車がもっと増えなければならない、などの意見が出た。

山根教授は、講演を通じ“BDFは「Best Diesel Fuel」と言ってもいい”と述べ、会場から拍手がわきあがった。

(4) その他

同シンポジウムは、当日夕方のテレビユー山形の報道番組で放映、翌日の山形新聞にも記事が掲載された。

5. 関連情報

シンポジウム当日（1月31日）は蔵王温泉にて「雪と炎の饗宴2009」が開かれ、同所での発電は、知音が廃食用油から精製した「バイオディーゼル燃料」を使用して、氷点下の会場で電力を供給し続けた。



(文責＝鈴木)